文化薫道（ぶんかくんどう）

～文化の風が吹くまち ちくしの～

問い合わせ先／文化情報発信課（歴史博物館内）☎(921)8419

其の二十二 月夜見梅華（つきのよにばいかをみる）

月耀如晴雪（つきのかがやくはははれたるゆきのごとし）
梅花似照星（ばいかはてれるほしににたり）
可憐金鏡轉（あわれぶべしきんきょうのかひろきて）
庭上玉房馨（ていじょうにぎょくぼうのかおれることを）

この詩は菅原道真が幼少期に詠んだ歌として伝えられています。詩歌の才能に秀でていた道真公は、都で高い地位に上り詰めます。

しかし、延喜元(901)年冬、都で罪を着せられ、大宰府に左遷（それまでの地位から、低い地位に落とされること）されてしまいます。

道真公は、無実である罪を天に訴えるため、天拝山山頂の天拝岩に立ち、七日七夜祈りを捧げますが、左遷から2年後の延喜2(903)年、道真公は失意のうちに亡くなったと伝わります。

夜空に上がる大輪の花

天拝山山頂の天拝岩

晩年の道真公とゆかりが深い天拝山は、登山客で毎日にぎわい、自然豊かな場所として市民に親しまれており、毎年、旧暦8月15日頃（中秋の名月の日）には、天拝山歴史自然公園で観月会が開かれています。

観月会のクライマックスに打ち上げられる花火は、道真公が幼少期に詠んだ詩をほうふつとさせます。

明るい月夜に、白金の花火（星）が大輪の花を咲かせ、また池上池は鏡のように月と花を映します。公園に、熱気と伝説が薫る瞬間が訪れます。

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課
〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／41,400部